

伊豆の国市立大仁中学校において防災学習を実施

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は10月20日（火）、伊豆の国市立大仁中学校の2年生115人に防災学習を行った。

これは、自衛隊の災害派遣時の行動や防災技術を通じて、生徒たちに災害発生時にできることや心構えについて学んでもらいたいと企画され、三島募集案内所に依頼があったもの。防災講話と防災技術体験をグループごと交代で行った。

防災講話は、三島所長の中島充2等陸尉が、自衛隊の仕事や活動内容、災害派遣活動について説明したほか、災害発生時の心構えとして「平常心」をアドバイスとして送った。

防災技術体験では、望月崇弘1等海曹がねじ結び、もやい結び、命綱結びの3種類のロープワークを紹介。実際に生徒たちが反復練習や競争をして、楽しく技術を学べるよう工夫した。

後日届けられた生徒たちの感想文には「自衛隊について、国を守ること、災害派遣などで暮らしを守ること、世界の平和にも貢献することなど、よく知ることができた」「結び方により、それぞれ活用の場面があることを知ることができた」「今回の技術は災害の時に生かせるよう、忘れないよう練習したい」などの記述があり、成果のある防災学習の機会となった。

静岡地本は、今後も積極的に自衛隊をPRし、自衛官を職業選択の一つとして考えてもらえるよう努めていく。



自衛隊の音楽と乗り物を紹介 北浜幼稚園の園児たちに

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は10月23日（金）、学校法人北浜学園北浜幼稚園（浜松市）において、航空自衛隊中部航空音楽隊（浜松基地）とともに自衛隊の広報を実施した。

当日は3密対策として各組ごとに間隔を開けて座り、雨が降り少し肌寒くはあったが戸を開けて換気し、年少、年中、年長組の約200人ずつに分かれて、3回演奏が行われた。知っている曲が演奏されると、あちこちで手拍子や歌声、座ったまま振り付けを表現する姿が見られた。

演奏が終わると、園児たちは体育館を一巡して壁一面に貼られた自衛隊の乗り物の写真に目を輝かせ、「かっこいい」「乗ってみたい」「これ、見たことある」など、歓声を上げていた。

最後の年長組ではアンコールに応え音楽隊が演奏の準備に入ると、拍手がより一層大きくなった。アンコール後、園児から音楽隊にお礼の花束が贈られると、このサプライズに音楽隊も大いに驚き、喜んでいった。

終了後には音楽隊からも、「純粹に音楽を楽しむ姿・心に触れ、とても有意義な時間が過ごせました」と感謝の言葉が聞かれた。

静岡地本は、引き続きこのような機会を活用し自衛隊の魅力の普及に努め、地域の子供たちの目線に立ち、地域と自衛隊の懸け橋となるよう努力していく。

